

中国におけるメディカルツーリズムの展開

袁 麗 暉

Yuan Lihui

一 はじめに

2016年VISA and Oxford Economicsが発表した報告書によると、メディカルツーリズム産業が1000億ドルの規模を持ち、その後10年間に世界人口の約3 - 4%が外国で健康に関するサービスを受けるため、メディカルツーリズム産業の規模は毎年25%の率で増加する見込みである¹⁾。

スタンフォード研究所SRIの報告によると、世界のメディカルツーリスト数が2006年の2000万人から2012年の4000万人に増加し、メディカルツーリスト一人当たりの目的地での平均消費額は約1万ドルであり、その他のツーリストの消費額をはるかに上回る。

日本では早くもメディカルツーリズムが持つメリットに注目し、政府機関が2009年からメディカルツーリズムに関連する取り組みを行った(表1)。

日本の医療技術が世界に誇る高いレベルを持つと同時に、欧米の先進国に比べると価格が低い優位性を持っており、近年診断と治療を求めて世界各地からのメディカルツーリストが増加しつつあり、特に中国人のメディカルツーリズムの増加が著しく目立っている。図1を見てわかるように、2017年の日本外務省が発行した医療ビザ総数は、日本が医療ビザ制度を設立した翌年の2011年の発行総数の約20倍であり、その中、中国人への医療ビザの発給総数が38倍あまりに上っていて、中国人メディカルツーリストの増加の勢いが窺える。実は、中国人メディカルツーリストの主な目的地は日本に限らず、韓国、アメリカもその目的地になっていて、中国南方日報²⁾の報道によると、韓国、日本、アメリカで美容、アンチエイジング、健康診断等医療サービスを受ける中国人メディカ

表1 メディカルツーリズムに関する日本政府の取り組み内容

名称	取り組み内容	名称	取り組み内容
内閣府	・09年12月 新成長戦略(基本方針) 6つの戦略分野のうちの1つ「ライフ・イノベーションによる健康大国戦略」のなかで「アジアなど海外市場への展開促進」として「アジアの富裕層等を対象とした健診、治療等の医療及び関連サービスを観光とともに促進」と盛り込む	観光庁	・09年6月インバウンド医療観光に関する研究会を設置 ・09年7月～10年3月にかけて3回研究会を開催 ・10年3月 実証事業を実施(4医療機関)
経済産業省	・09年1月 「サービス・ツーリズム(高度健診医療分野)研究会」を設置 ・09年8月 「同研究会とりまとめ」を発表 ・10年2～3月 同研究会実証事業実施(9医療機関) ・10年4月 「国際メディカル・ツーリズム調査事業」報告書取りまとめ	外務省 法務省 など	・10年4月 「医療ビザ」を新設の方向で政府が検討に入る ・10年5月 10年7月からの中国人観光客の個人訪日ビザの発給条件緩和を決定 [年収25万円(約350万円)以上からゴールドカード所有者(年収6万円(約85万円)程度)へ緩和]
厚生労働省	・09年2月 医療ツーリズムプロジェクトチーム立ち上げ	日本経団連	・09年12月 「経済戦略レポート」 「新たな需要が期待される5分野の1つとして医療産業への提言を盛り込む」メディカル・ツーリズム体制」の構築に向け、国を挙げて取り組むべきと強調

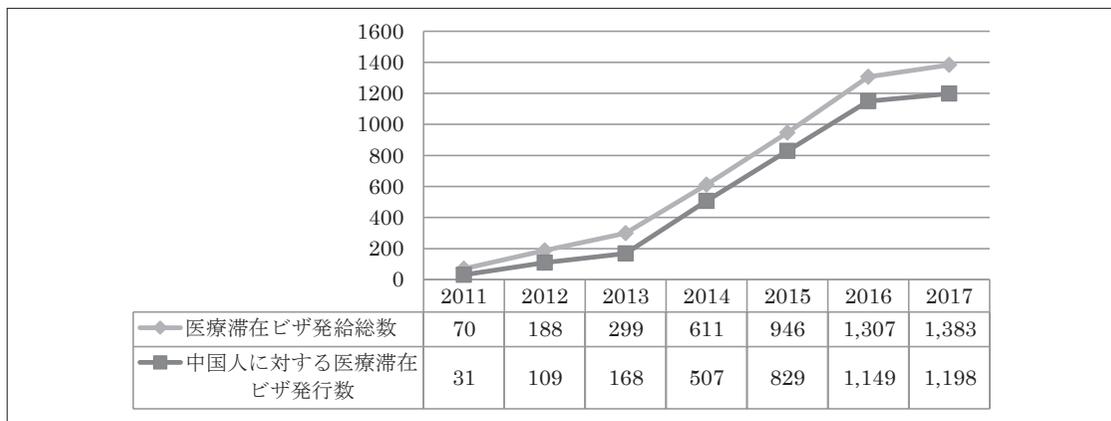
出所：株式会社日本政策投資銀行産業調査部「進む医療の国際化～医療ツーリズムの動向～」

1) Medical Tourism Magazine July 25, 2016

2) 南方日報 2011-9-6 第A17面

図1 日本政府発行の医療滞在ビザ数の推移図

(単位：人)



出所：https://www.e-stat.go.jpのデータより整理作成³⁾

ルツーリストの年間消費額が50億ドルにも上る。
 世界におけるメディカルツーリズムの発展拡大の傾向と世界における中国人メディカルツーリストの増加に対して、中国人の研究者もいち早く注目しており、メディカルツーリズムについての研究が年ごとに増えてきた。

二 中国におけるメディカルツーリズムの先行研究

2000年に入ると、中国の学術雑誌にメディカルツーリズム⁴⁾に関する研究が少しずつ出始めた。最初頃の論文はメディカルツーリズムの概念や、積極的にメディカルツーリズムを推進するアジアの国々の紹介、そして、メディカルツーリズムの経済効果の紹介に重点を置いていた。

孟（2004）は論文でメディカルツーリズムの定義を紹介し、東南アジアのマレーシア、タイ、シンガポールにおけるメディカルツーリズムの内容を紹介し、低い費用はメディカルツーリズムが展開できる一要因だと指摘した。任（2005）はタイにおけるメディカルツーリズムの大きな経済効果

を紹介し、外国の低い医療費と高い医療技術はアメリカからのメディカルツーリストの動機だと指摘したと同時に、LCC航空の発展やインターネットの発展はメディカルツーリズムの発展の推進力だと述べた。徐等（2006）はインドにおけるメディカルツーリズムの状況とその原因を分析した後、中国におけるメディカルツーリズムのメソッドを提示した。張等（2007）はアジアにおけるメディカルツーリズムの発展だけではなく、中東、ヨーロッパ、南米諸国におけるメディカルツーリズムの状況も紹介した。医療の質、経済的要因（費用）、待ち時間、政府の推進はアジア諸国におけるメディカルツーリズムの発展の要因と分析した。梁等（2008）はメディカルツーリズムの発展要因以外に、中国がメディカルツーリズムの発展にあたり、低い医療サービス費用、豊かな観光資源、独自の漢方医学を優位性として挙げて、認知度の低さ、市場規制の不完備と言葉の障壁を劣勢要素として分析し、漢方を中心とするメディカルツーリズムを推進すべきと提案した。以上の研究はメディカルツーリズムの内容や先進国

3) 図の「中国人」は本土に限る。

4) メディカルツーリズムは中国で「医療旅遊」と呼ぶ。

の事例とメディカルツーリズムがもたらす経済効果に注目しただけで、メディカルツーリズムが目的の地にもたらすデメリットには言及しなかった。高等(2010)は初めてメディカルツーリストの輸出国と輸入国にもたらすデメリットを分析し、目的の地の自国民の医療アクセスを悪くする可能性があるとして警鐘を鳴らしたが、その後の中国におけるメディカルツーリズムへの提言の中では、そのデメリットについて言及しなかった。

2010年から、特定の地域におけるメディカルツーリズムの展開に関する研究が多くなってきた。李等(2011)、安(2011)、劉(2013)、曲等(2014)、馮(2015)、王(2015)はSWTO分析を用いて、天津市、鄂北西地域、北京市、江蘇省泰州市、上海市、江蘇省に対し分析を行い、その地域におけるメディカルツーリズムの発展に対し、提案をした。李等はメディカルツーリズムがもたらす地元住民の医療アクセスへの悪い影響を小さくするために、新たにメディカルツーリズム専用の医療施設を設立する提案をした。李等の提案と対照的に安は鄂北西地域の医療技術の高い医療機関にメディカルツーリズム部門を設ける提案をした。劉は北京市におけるメディカルツーリズムの発展の遅れを指摘し、まず医療技術レベルの高い病院の1、2か所を選んでスタートすべきであると提案した。多くの先行研究はメディカルツーリズムが、これからも大きく発展していくと予測し、中国の新たな経済起爆剤として発展すべきであり、各地域における特色のあるメディカルツーリズムの確立や、法律の整備、メディカルツーリズムに関わる人材の育成、メディカルツーリズム協会の設立等について一致して賛同している。そして、研究の多くは外国人メディカルツーリストの誘致を勧めているが、曲等(2014)は中

国の高齢化に注目し、中国の高齢者をその対象にと提案した。

メディカルツーリズムに対する研究が多くなると同時に、中国の病院、地域はメディカルツーリズムの魅力に着目し、その推進に向け手を打ち始めた。

三 中国におけるメディカルツーリズムの展開

メディカルツーリズムという言葉が中国で認知されるまで、内容が似ていた医療サービスが中国の一部病院ですでに行われていた。それは、「特需医療」というサービスである。この「特需医療」は中国で行われているメディカルツーリズムの前身だと言ってもよい。

1 中国におけるメディカルツーリズムの現れ：特需医療

「特需医療」は20世紀90年代に中国の医療界に現れたもので、その前身は外国人患者あるいは中国政府の高級幹部に提供される医療サービスであった。90年代になると、改革開放によって物価の上昇が速く、医療用の消耗財のコストも同じように高くなるが、医療サービスの価格が比較的安いまま押さえられていて、病院の経営が苦しくなる一方であった。又、改革開放によって収入が大幅に増えた階層も現れ、その人々によりよい医療サービスを求める需要があった。時代の変化に合わせて、政府が一定条件を満たす病院に対し、一般民衆に対する基本的な医療サービスを確保した上、使える病床数等を規制した上で、「特需医療」の提供を認めるようになった。

「特需医療」は特殊な需要に対する医療という意味で、特殊な需要とは、執刀医を指名する、規定される手術日あるいは時間以外での手術⁵⁾、24

5) 中国語で「加班手術」、日本語に直訳すると「残業手術」になる。

時間看護、高級病室などがある。

「特需医療」で提供されるサービスの価格は医療サービスのコストに一定の利益をプラスし、市場の需給関係を考慮して病院が自由に決めることができるが、物価管理機関の許可を得る必要がある。

そして、21世紀に入ると、国際的にメディカルツーリズムの発展や、外国へ向かう中国人メディカルツーリストの増加に連れて、メディカルツーリズムに対して、中国のメディカルツーリズムの発展における遅れや、「外国に流出する中国人患者」⁶⁾を取り戻すべきだと中国のいくつかの地域でメディカルツーリズムを推進する動きがあった。

2 中国におけるメディカルツーリズムの発展

(1) 上海と新疆のケース

上海は中国で早い段階でメディカルツーリズムを推進した都市であり、2005年、上海浦東区に国際医学園区を設立した。上海国際医学園区は浦東空港まで18キロで、11.8平方キロの面積を有している。学園区はさらに国際病院区、医学大学区、医療機器及びバイオ医薬産業区、国際リハビリ区、医学R&D区、国際商務区の六つの区に分けられ、国際病院区はいくつの国際総合病院と専科病院があり、中国華東地域の患者をはじめ中国全土と外国の患者に質の高い医療サービスを提供することを目的にしている。

500床、建築面積が9.7万平方メートルを有する上海国際医療中心(SMIC)は上海国際医学園に設立された初めての大型総合株式会社病院であり、2014年5月28日から営業している。この病院の設立は中国衛生計生委員会と上海市政府の「医療改革パイロットプロジェクト」の一部であり、それ

まで公立病院が持つ「特需医療」を引き継ぐことを目的にしている。病院の勤務医以外、上海市の8の三甲公立病院と協定を結び、公立病院に勤務する80余りの知名医師に非常勤として勤務してもらっている。

上海のやり方と違って、新疆自治区は地理的な優位性を生かし、メディカルツーリズムのための医療機関を新たに設立せず、従来の医療機関が近隣の中央アジア諸国からのメディカルツーリストを受け入れている。毎年中央アジアから新疆への観光客が約8万人に達し、その1%~5%は医療を目的としている。新疆は中央アジア諸国に比べ医療レベルが高い他、漢方、ウイグル民族医学による治療がメディカルツーリストに高く評価されている。

上海、新疆以外に、省政府が積極的にメディカルツーリズムを推進するケースも現れた、いわゆる「医療旅遊先行区」である。

(2) 中国の「医療旅遊先行区」

中国語の「旅遊」という言葉は観光、旅行の意味で、「先行区」はpilot areaの意味である。「医療旅遊先行区」はメディカルツーリズムパイロットエリアを意味している。2017年末まで、中国には三つの「医療旅遊先行区」が設立されていて、そのいずれも特色を持つ先行区になっている。

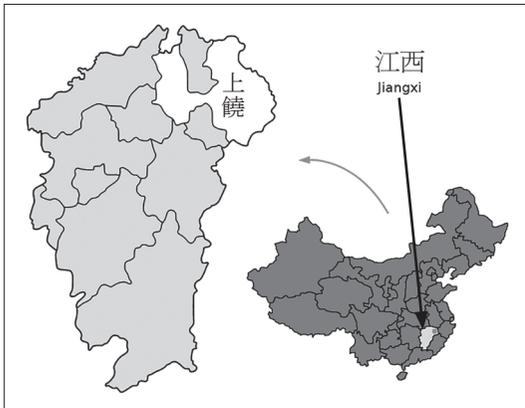
A 上饒市国際医療旅遊先行区

上饒市は中国江西省の東北部に位置し(図2)、人口671.5万人⁷⁾を持つ。2016年のGDPは1811.1億元であり、亜熱帯気候で、年間平均気温が16.7度-18.3度の間である。上饒市の観光資源は豊富で、2つの世界地質公園、2か所の世界自然遺産、1か所の世界文化と自然二重遺産以外

6) 南方日報 2011/9/6 A17面

7) 中国統計年鑑2016

図2 上饒の地理位置



出所：百度地図

に、国家レベルの自然保護区、森林公園、湿地公園もある。

交通について、上饒上清山という国内線の空港を持ち（2017年通航）、四川省の成都線、青島-上饒-深圳線、北京-上饒-佛山線の三つの航路が開通されている。

医療機関の状況について、上饒市には病院（衛生院を含む）353か所、医師（助理医師を含む）10,396人、看護師10,815人、ベッド数23,317床がある。

中国発展網⁸⁾によると、上饒国際医療旅遊先行区は2016年4月に江西省政府の許可を得た医療旅遊先行区である。先行区の面積は20平方キロメートルで、その計画によると、先行区には一つのコアエリアと空港新区国際医療健康園、養生康復園、上饒経済技術開発区生物医薬産業園の三つの園があり、主な産業は医療健康産業に設定している。又、先行区の周辺には、国家湿地公園を含む沢山の観光資源もある。「上饒国際医療旅遊先行区発展企画」によると、2017年からの5-10年の間に先行区への投資が約

400-500億人民元、産業規模の500億人民元以上を見込んでおり、そして、800-1,000億人民元の経済波及効果と新たに2万人以上の雇用が見込まれている。国際的な知名度の高いメディカルツーリズム目的地、ハイエンドの医療人材の集まる地域、ヘルスに関する国際交流のプラットフォーム、世界の幹細胞による再生医学のトップ地域を目指して、先行区のコアエリアには50億元の投資を計画している。又、先行区の発展スタイルとして「観光+医療」、「観光+健康」、「健康+美容」、「観光+リハビリ」、「観光+老後生活」に関わる地域に発展することになっている。

B 常州市国際医療旅遊先行区

常州市は中国東部に位置する江蘇省（図3）の南部に位置し（図4）、人口470.8万人⁹⁾を持つ。面積は4,385平方キロメートルで、2016年のGDPは5,773.9億元であり、亜熱帯海洋性気候である。

図3 江蘇省



出所：百度地図

8) 中国発展網：中国国家發展改革委員会の管理下に置かれ、中国経済導報社が運営するサイトである。

9) 中国統計年鑑2016

図4 常州市



出所：西太湖国際医療産業園紹介

常州市は国家Aレベル以上の観光景観区域32か所を持ち、2016年観光業による収入は2015年に比べ14%を増加した。また、五つ星ホテルが7つ、四つ星ホテルが19つがある。

交通状況について、常州奔牛空港という国際空港を持ち（2014年から国内線から国際線）、日本の中部空港を含む6つの国際線路、28の国内線路を持っている。また、高速鉄道の京滬線が常州を通っている。

医療機関の状況について、常州市には病院（衛生院を含む）353か所、医師（助理医師を含む）10,396人、看護師10,815人、ベッド数23,317床がある。

2015年江蘇省人民政府が常州市の国際医療旅遊先行区の申請に許可を下し、常州市国際医療旅遊先行区は常州西太湖科技産業園に依拠する政府の許可を受けた国際医療旅遊先行区となった。「常州西太湖科技産業園は、開発計画面積

は90平方キロメートルであり、バイオ医薬や医療機器等の「健康産業」、グラフェンをはじめとする「新素材産業」、農業機械や自動車部品の「先進的設備製造」、電子商取引・現代物流等の「現代サービス業」を重点産業として設定している¹⁰⁾。常州西太湖科技産業園にはさらにいくつかの園に分けられており、中には西太湖国際医療産業園があり、常州西太湖国際医療旅遊先行区もこの園に設置されている。

常州西太湖国際医療旅遊先行区にはハイエンド健康診断センター、the third party生物医学テストセンター、西太湖特色専科診療センター、西太湖リハビリ療養センター、西太湖国際医療旅遊センター、西太湖健康養老保健センターが計画されている。ハイエンド健康診断センターは予定投資額2億人民元で、遺伝子、ガン、免疫等の検査が主なサービス内容としている。the third party生物医学テストセンターは予定投資額1億人民元で、病院、科学研究機関等に臨床検査、新薬の臨床試験などのサービスを提供する。西太湖特色専科診療センターでは粒子腫瘍治療、特色のある漢方医学の診療、癲癇とパーキンソン病の治療を計画している。西太湖リハビリ療養センターではリハビリを中心に業務を展開する予定である。西太湖国際医療旅行センターは健康増進、整形美容、慢性疾患リハビリを主な業務にしている。西太湖健康養老保健センターは高齢者をサービス対象としていて、高齢者アパートメント、高齢者療養リハビリ施設、高齢者短期滞在施設等の建設と業務の展開を計画している。

C 海南省博鳌（はくごう）楽城国際医療旅遊先行区

10) 愛知県上海産業情報センター 安田 龍「常州西太湖科技産業園について」

海南省博鳌樂城国際医療旅遊先行区は海南省海口市（図5）に位置している。海口市は海南省（図6）の東部に位置し、面積1,710平方キロメートル、2016年常住人口50.61万人、2016年のGDPは220.6億人民元、一人当たりGDPは43,740人民元、気候は熱帯季節風気候、年間気

温の変化は大きくなく、平均気温は24度である。

海口市は海南省都の海口市まで78キロ、三亜市まで163キロである。2016年博鳌空港が通航した。

海南省の観光業が盛んである。2012年の宿泊観光客の延べ人数は3,300万人に達し、観光業収入は約200億人民元であった¹¹⁾。2013年2月28日、國務院が海南省の国際医療旅遊先行区の設立申請を許可した。海南博鳌樂城国際医療旅遊先行区は國務院が許可した一番目¹²⁾の国際医療旅遊先行区である。同先行区は、海南省海口市の万泉川の両岸にあり、計画総面積は20.14平方キロメートル、そのうち建設面積は9.96平方キロメートル、計画総人口は62,900人である。先行区の機能指向は、地元の生態資源に依拠し、医療、高齢者に関するサービス、研究開発、およびその他の国際的な医療観光関連産業の発展を図り、カーベットの低排出生態環境のモデルを作り、関連分野の国内および国際協力と交流プラットフォームを充実させることである¹³⁾。

「海南博鳌樂城国際医療旅遊先行区医療産業發展企画綱要2015-2024年」では發展総目標として「10年間で産業の規模を500億人民元以上にする」としていて、開發段階として、以下の三段階にしている。

- ①最初の3年間に、企画と設計、インフラの整備、基礎施設の建設を完了し、企業・医療機関の招致を始める。
- ②次の3年間に、大部分の医療機関の建設を完了し、医療活動をスタートする。いくつの専

図5 海南省海口市



出所：百度地図

図6 海南省



出所：百度地図

11) 海南日報 2013/03/07 A01面

12) 2017年末まで海南博鳌樂城国際医療旅遊先行区は唯一の国家レベルの医療旅遊先行区である。

13) 海南日報 2013/07/07 A04面

科センターを建設する。2019年前後に、先行区のメディカルツーリストが海南省の観光者数に占める率を5%以上の達成とする。

- ③最後の4年間に、国際的なメディカルツーリズムの目的地になり、先行区のメディカルツーリストが海南省の観光者数に占める率を10%以上に達成する。

また、先行区で重点的に発展させる内容として、以下の6つの領域を挙げている。

①特別許可医療¹⁴⁾

特別許可医療とは国家臨床応用医療技術目録に収録されていない新しい医療技術、新しい医療機器、新しい薬品は、先行区での使用が特別に認められることである。楽城先行区の特別許可医療の建設プロジェクトとして、がん治療センター、幹細胞移植センター、整形外科（関節）医療センター、歯科医療センター、中西医医療センター、再生医学センター、トランスレーショナル医療センター、心血管病院、血液病センター、呼吸疾患治療センター、老人病院などの建設がある。

②ヘルスマネジメント

この領域では主にビッグデータを利用して、健康管理のソフトと管理システム開発を目指している。建設プロジェクトとして、国際健康管理センターと国際健康診断センターの建設プロジェクトがある。

③介護・看護とリハビリ

この領域は、妊婦の健康管理、産後の身体回復、乳児の栄養管理、幼児の知能早期開発、高齢者の健康管理及び生活支援、リハビリ等を内容としている。建設プロジェクトとして、国際養生センター、国際産婦人科病院、国際リハビリセンターの建設プロジェクト

がある。

④医学美容とアンチエイジング

この領域の建設プロジェクトは、国際医学美容センター、国際アンチエイジングセンターの建設がある。

⑤third-party testing

この領域では遺伝子検測技術の標準化管理システムの健全化と医学テストサービスの提供を目指している。

⑥国家レベルの医学研究基地

また、政府は楽城先行区に以下の九つの優遇政策を与えた。

- ①輸入される医療器械と医薬品の審査期間を短くする。

- ②医療技術臨床応用管理弁法と医療技術臨床研究の関連規定に従い、医療技術の導入を許可する、幹細胞による臨床研究等先端研究の申請を認める。

- ③先行区内の非公立医療機関及びその診療項目の審査権は衛生部門が有する、また、業務に必要な大型医療設備の許可権も衛生部門が有する。

- ④国外の医師が先行区での就労期間を3年まで拡大する。

- ⑤外国資本の医療機関の設立を認める。

- ⑥一部の医療機器と医薬品の輸入関税を低くする。

- ⑦ある程度新規建設用地計画面積を増やす。

- ⑧先行区での医療・環境保全・新エネルギーに関する国際会議の開催をバックアップする。

- ⑨先行区で多様な融資手段を用いて社会資本を利用することを推奨する。

以上の地域以外に、成都市、広州市、寧波市も

14) 中国語で「特許医療」という。中国語の「特許」は特別に許可することを意味する。

積極的にメディカルツーリズムを推進しようとしている。

中国におけるメディカルツーリズムの展開には諸外国に比べると、いくつかの特徴を持っている。それは中国の医療制度に深くかかわるものである。その特徴を述べる前に、今まで諸外国で行われているメディカルツーリズムについて少し振り返る必要がある。

四 メディカルツーリズムについて

中国におけるメディカルツーリズムを論ずるために、ひとまず、メディカルツーリズムの概念や、メディカルツーリストの動機、とメディカルツーリズムへの影響ファクターを事前に述べる必要がある。

1 メディカルツーリズムの定義とその動機

拙稿によると、メディカルツーリズムは人々が事前に計画し、国境を越えて医療サービスを受ける行動であり、この行動は治療を受けるだけでなく、目的地でのレジャー活動も含まれている(袁2010)。今まで、メディカルツーリズムに対する定義は主に以上のような内容である。

患者がわざわざ国境を越えて、外国で医療サービスを受ける動機として、①同じ医療サービスに対し、外国の場合、自国に比べて、費用がはるかに安い。②ある医療サービスを受ける場合、自国ではかなりの待ち時間を必要とする。③ある医療サービスが自国で規制されている。④外国の医療サービスは自国に比べるとハイ・クォリティである、などがしばしば指摘される。

メディカルツーリズムへの影響ファクターとして、①目的国の医療技術レベルと医療制度②患者の自国の医療制度と医療技術のレベル③受入国の医療サービス費用④患者が受入国までの交通状況⑤言語の要素、等があると袁(2010)が指摘して

いる。

2 メディカルツーリズムのメリットとデメリット

メディカルツーリズムの推進に当たって、そのメリットとデメリットについて袁(2010)は患者側と目的国側及び出発国側の三つの立脚点から以下のように分析した。

(1) 患者側のメリット

- ① 患者が発展途上国の富裕層であれば、自国で受けられないハイ・クォリティの医療を受けられる。
- ② 患者が先進国の住民であれば、自国より安い金額、あるいは短い待ち時間、もしくは自国で規制されている医療を受けることができる
- ③ 患者が治療を受ける前後、目的地で観光もできて、その観光行動は外国で治療を受ける時の不安を和らげる効果があると言われている。

(2) 患者側のデメリット

- ① 自国から目的国が遠い場合、長時間のフライトは患者にとってリスクである。
- ② メディカルツーリズムは営利性であるため、患者の経済状況に見合った治療方法を設計するケースが珍しくなく、ゆえに、患者が受ける治療は必ず患者にとって一番良い治療法とは限らない。
- ③ 目的国には医療ミスに対する法の未整備問題が存在する可能性がある。
- ④ 帰国後のフォローアップ・ケアの問題

(3) 目的国のメリット

- ① メディカルツーリズムの目的国にとって医療サービスの輸出になり、患者が多ければ多いほど収入が増加していく。
- ② 目的国が発展途上国の場合、経済効果だけではなく、自国の医療技術の向上に繋

がる可能性が大きい。

(4) 出発国のデメリット

- ① 患者流出状況を把握しにくいいため、医療資源の有効配置に悪い影響が出る可能性がある。
- ② メディカルツーリズムでは患者の経済状況と治療内容を結びつけることは出発国にとって、医療行為の営利性を正当化する可能性がある。

(5) 目的国のデメリット

- ① 出発国と同じ、医療行為の営利性を正当化する可能性がある
- ② 医療資源配置の不公平と医療アクセスの格差をもたらす可能性がある。特に目的国が発展途上国の場合、このデメリットが著しく大きい。

しかし、中国で行われているメディカルツーリズムは諸外国のものと相似点を持っているが、相違点も明らかに存在している。次の節では、中国におけるメディカルツーリズムの定義、推進される背景、その特徴の面から述べていく。

五 中国におけるメディカルツーリズムの特徴とその背景、およびその問題点

メディカルツーリズムの定義として、いままでの先行研究では、国境を超えて外国で医療サービスを受ける行動とする定義がほとんどであるが、中国で推進されているメディカルツーリズムはもっと広い内容を含んでいる。前述で触れたように、中国で推進されているメディカルツーリズムは外国人患者を対象者とする以外に、今まで外国へ流出する中国人患者を取り戻す、すなわち、中国人の富裕層もターゲットにしている。以下では、中国におけるメディカルツーリズムの特徴を分析し、その背景にある社会的、医療制度の要因を明

らかにした上で、問題点を指摘する。

1 中国におけるメディカルツーリズムの特徴

中国におけるメディカルツーリズムの特徴は以下の点にまとめることができる。

- (1) ハイエンド医療サービスが大きく盛り込まれていて、広い範囲に渡って医療サービスを提供している。

メディカルツーリズムを行う三つの先行区では、幹細胞を用いる治療や、粒子線による腫瘍治療など、ハイエンドな医療サービスが提供されることになっている。又、医療美容、アンチエイジング、歯科、産科、乳幼児関連サービスなど提供されるサービスが広範囲であることがわかる。

- (2) 医薬クラスターに設置されているケースが多い。

上述の内容を見れば、新疆のケースを除いて、メディカルツーリズムの医療を担う医療施設は医薬クラスターに設立するケースが多い。その狙いは、以下のような内容が考えられる。まず、上海のケースのように、いままで「特需医療」を既存の医療機関から分離する狙いがある。続いて、その他の産業集積地と同じように医薬産業集積地は、政府の優遇政策を受けていることが多く、そこに立地すると納税、用地の面で優遇政策が受けられる。第三点として、産学研の競争と協力による新たな商品とサービスの生み出しである。

- (3) 政府の優遇政策を受けている。

中国のメディカルツーリズムが政府の政策支持を受けていることが多い。(2)で述べたとおり、医薬産業集積地に立地することで、優遇政策を受けられるだけではなく、海南樂城先行区のように、中国で許可されていない治療法、医薬品を先行区なら使うことができ、また医療機器等を輸入する際に、関税の優遇措置が受けられる。

- (4) 外国人患者だけではなく、中国人富裕層も

ターゲットとしている。

中国で行われるメディカルツーリズムは外国人患者だけではなく、中国人富裕層もターゲットにしている。中国には2012年当りに国民皆保険を実現し、従業者が加入する「従業者基本医療保険」と農業戸籍をもつ人々と従業者以外の都市部住民が加入している「住民基本医療保険」の二つの保険制度が9割以上の人口をカバーしている。この二つの制度名のいずれにも「基本」という言葉が入っていて、それが今の中国の公的医療保険が「基本的な」医療サービスを保障する意味で、ゆえに多くの高価の薬品や、治療法等が中国の公的医療保険の償還対象外になっている。ならば、同じ実費治療ならば、高い医療技術を持つ居住地以外にある医療機関で治療を受ける動機が出てくる。また、中国では患者に対する看護、介護は付き添いの家族や、家族が雇う付き添い人が行うことになっていて、上海のケースでの24時間の看護付きというサービスも付き添う家族の負担を軽減することになり、富裕層の需要を満たすサービスと言えよう。

(5) 中国人口高齢化を見据えて、高齢化関連の内容が含まれている。

上述した内容に、上饒のケースで「観光＋養老」という発展スタイルの提起や、常州西太湖先行区での健康養老保健センターの設立や、高齢者アパートメント、高齢者療養リハビリ施設などの建設とサービス展開、海南樂城先行区での高齢者健康管理及び生活支援、リハビリのサービス内容の設定から、中国のメディカルツーリズムには中国の高齢化を見据えて、高齢化関連の内容も含まれていることがわかる。

(6) 西洋医学だけではなく、中国の伝統医学によるサービスも含まれている。

中国におけるメディカルツーリズムにはハイエンドな西洋医学だけではなく、中国伝統医学の「漢方」もそのサービス内容になっている。

2 中国におけるメディカルツーリズムの推進の背景

(1) 世界におけるメディカルツーリズム産業の急成長、それがもたらす経済効果が魅力的である。中国では経済発展の鈍化で、経済起爆剤としてのグリーンな新しい産業が求められている。

(2) 中国人の富裕層が増加し、健康志向は強くなっていて、先進的な医療技術に対する需要が増えている。メルリリンチ・グローバル・ウエルスマネジメントとキャップジェミニの合同調査によれば、2010年に中国本土の富裕層（住宅・收藏品や耐久消費財を除く純資産が百万米ドル以上を保有する人々を富裕層と定義）が53万5千人に達している¹⁵⁾。上海市衛生局の推計によれば、上海でのハイレベル医療サービスの市場規模は106億元以上だが、中国と外国との合併医療機関の市場規模は40億元に留まる¹⁶⁾。

(3) 中国人の脳血管疾患、悪性新生物の罹患率が高くなっているにも関わらず、中国人の先進的な医療技術への需要を満たす技術・医療人材が不足している。中国人が外国で医療を求めるケースが増加している。例えば、日本の三田病院の場合、平成24年の外国人患者受け入れ数は、月平均約115名、その内中国人は34名（外来33、入院1）となっている¹⁷⁾。また、山王メディカルセンターの人間ドックサービスの評判を聞きつけ、中国の富裕層向けのドック健診を前提とした業務提携を

15) 国際遠隔診断事業コンソーシアム「国際遠隔診断事業に関する現地実証事業報告書」、2014

16) 注2に同じ

17) 注2に同じ

も仕込んでくる病院やエージェントが後を絶たない。

3 中国におけるメディカルツーリズムの問題点

中国の一部の地域、病院では外国人患者及び中国人富裕層をターゲットにして積極的にメディカルツーリズムを推進していて、それによって、中国人の富裕層の患者がわざわざ外国に行かなくても、中国でハイエンドの治療を受けられる。また、医療クラスターの中に設置されることで、医療技術の向上や、産学連携によって、早く新しい治療法の発見とその実用化が望めるようになり、地域、あるいは国レベルの医療技術の向上に繋がる。しかし、第四節で述べたように、メディカルツーリズムにはいくつかのデメリットが存在している。特に中国の公的医療保険はまだ「基本」のサービスを保障する段階であり、利益指向のメディカルツーリズムを大々的に推進すると、中国の医療システムに大きな悪影響を及ぼす可能性がある。中国におけるメディカルツーリズムにいくつかの問題点が考えられる。

(1) 中国の公的医療保険システムに与える影響

中国の公的医療保険システムは2012年頃に皆保険を達成しているが、保障する内容はまだ「基本」の医療サービスに限られていて、ハイエンドの治療方法、高価な治療薬が保険償還リストにならないことが多い。近年徐々に保障範囲を拡大しているが、保険償還しない高価の薬、治療法が未だに多い。メディカルツーリズムを大々的に推進するならば、その営利の正当化につながり、そこで使われる医療サービスの内容に公的保険を適用することが難しくなる可能性が出てくる。

(2) 富裕層以外の住民の医療アクセスに与える影響

中国の医療従事者の数が先進国に比べると少なく、医療従事者のレベルにも大きな差がある。専

門家レベルの医師がそれほど多くない。2016年の「中国衛生と計画生育統計年鑑」を見ると、2015年の中国の院卒の臨床医の比率が12.4%、学部卒の臨床医の比率が46.4%に過ぎない。中国の医師の専門レベルは6等級に分けられているが、一番高い技術を持つ「正高」級の臨床医師が5.7%、2番目の「副高」級の臨床医が15.9%になる。上海のケースのように、80名の知名医師もメディカルツーリズムの医療機関で非常勤として勤めるとなると、他の住民の医療アクセスが悪くなる可能性は否めないであろう。

(3) 医療資源の配分問題

海南楽城の先行区のように、メディカルツーリズムを推進していくことに当たって、政策面で優遇政策を受けている。中国のメディカルツーリズム先行区では、積極的に外国資本、民間資本を利用しようとしているが、それにしても、前述した「医療機器と医薬品の輸入関税を低くする」などの優遇を受けるので、格差をもたらすのではないだろうか。実際に、中国広西省の部分病院の特需医療は世論に批判され廃止に至った(陳, 王2010)。また、各先行区では、高齢化社会を見据えて、高齢化関係の老人施設などの建設や運営を計画しているが、結局高価な医療サービスを負担できる富裕層の高齢者しか利用できなくて、公平性に欠けると言わざるを得ない。

(4) 法制度の整備問題

メディカルツーリズムを行う以上、研究者たちが一致して懸念する問題は法整備の問題である。医療サービスには情報の偏在性があるゆえに、治療によって予想外、あるいは患者が納得できない結果になった時、どう解決するのか、大変重要な問題である。特に海南の楽城先行区のケースでは、中国国内で認められていない治療法、薬品を用いる「特許医療」が先行区で認められることに

なっており、医療紛糾を避けるために、早急な法整備が必要である。上海のケースでは、SMICは開業して一年を経ってもベットの利用率が10%も満たさない状態であった。SMICの診療受け付け費用は最低600円で、医師のレベルによると最高5,000円で、公立三甲病院の場合、診療受け付け費は60元～100元である。又SMICの入院費も高く、スイートルームで二人の看護師がついていて、一泊4万円である。それが低い利用率の一因ではないかと言われている。これらの問題点はこれから中国でメディカルツーリズムを推進していく上に、早急に解決策を見出さなければならない。

六 結びにかえて

以上の議論から中国のいくつかの地域ではメディカルツーリズムがもたらす経済効果、メディカルツーリズムの推進による地域の医療レベルアップ、中国人富裕層のハイエンドの医療サービスの需要を満たすために、積極的にメディカルツーリズムを推進している。推進に当たり各地域が採った方法は異なるが、傾向として政府の主導で医療クラスターに病院等を設置し、優遇政策を提供する事例が増えてきた。中国各地でのメディカルツーリズムの推進によって、地域の医療水準の向上や、地域経済にインパクトを与えると期待できるが、医療サービスの特殊性による医療資源配分の公平さが求められていることから、そのデメリットも考慮して慎重に進めていかなければならない。

本文では中国のメディカルツーリズムの最新状況の紹介と問題分析を行ったが、中国の医療旅遊先行区という新しいメディカルツーリズムの形態について、詳しいデータが欠如しているため、本稿では満足できる分析ができなかったもの、こ

の新しい分野の分析をこれからの取り組むべき重要な課題の一つとして臨むべきである。

参考文献

- 1 袁麗暉「中国人を対象とする日本のインバウンド・メディカル・ツーリズムの展望」,「山口経済雑誌」, Vol.59 No.4, PP139-154
- 2 株式会社日本政策投資銀行産業調査部「進む医療の国際化～医療ツーリズムの動向～」
- 3 ジョセフ・ウッドマン『メディカルツーリズム』, 医療経済社, 2008, PP240-241
- 4 冯晓晖 上海发展国际医疗旅游的SWOT分析与对策思考《中小企业管理与科技》(上旬) 2015-12-05
- 5 孟卓 医疗旅游: 医院新金矿《当代医院》2004年第11期 27页
- 6 任圆圆 亚洲医疗旅游市场吸引欧美患者《医疗保健器具》2005第12期 29-30页
- 7 徐菲 陈婉丽 印度医疗旅游业的发展及其对我国的启示《南亚研究季刊》2006年第4期 118页
- 8 张文菊 杨晓霞 国际医疗旅游探析《桂林旅游高等专科学校学报》第18卷第5号 2007.10 736-739页
- 9 程丽 杜鹏程 赵捷 李岩 国际医疗旅游发展现状研究《内蒙古科技与经济》第161期 2008.4 49-50页
- 10 安艳芳 基于SWOT分许的鄂西北国际医疗旅游发展战略研究《价值工程》2011.07 325-326页
- 11 王颖 上海国际医疗旅游发展的困境与对策思考《上海管理科学》第34卷第5期 2012.10 99-102页
- 12 王星丽 江苏省发展国际医疗旅游服务业SWOT分析《江苏商论》2012.2 38-41页
- 13 曲国明 王巧霞 泰州市发展国际医疗旅游的SWOT分析《中小企业管理与科技》2014.11.25 143-144页
- 14 冯晓晖 上海发展国际医疗旅游的SWOT分析与对策思考《中小企业管理与科技》2015.12.05
- 15 上饶国际医疗旅游先行区产业发展说明会召开 上饶日报 2016.05.29 第001版

- 16 Medical Tourism Magazine July 25, 2016
- 17 南方日報 2011-9-6 第A17面, 2011/9/6 A17面 2013/07/07 A04面
- 18 国際遠隔診断事業コンソーシアム「国際遠隔診断事業に関する現地実証事業報告書」, 2014
- 19 海南博鳌乐城国际医疗旅游先行区医疗产业发展规划纲要 (2015-2024年)
- 20 陈方方, 王红漫 特需医疗服务需方意向分析《中国卫生事业管理》2010年第11号 737-739页
- 21 <https://www.e-stat.go.jp>
- 22 中国發展網 <http://www.chinadevelopment.com.cn/jbxx/310019.shtml>
- 23 上海国际医学中心遇冷 ‘一年病床入住率仅一成’
<http://m.y-lp.com/pages/Article.aspx?id=5700969230010441423>
- 24 新疆：医疗旅游成丝绸之路经济带新时尚 国务院新闻办公室网站 www.scio.gov.cn 2014-06-22
- 25 新疆医疗旅游为医疗服务中心建设“架桥铺路” 凤凰网资讯 2015年07月24日
- 26 省政府关于同意设立常州国际医疗旅游先行区的批复苏政复〔2015〕8号
- 27 中国統計年鑑2016
- 28 愛知県上海産業情報センター 安田 龍「常州西太湖科技産業園について」